

左半側空間無視患者は何に対する半側を無視するのか

武田克彦(たけだ かつひこ)

東京都神経科学総合研究所リハビリテーション研究部門

(要旨) 空間内におかれた物体を記述するのに、観察者中心座標系(viewer-centered)と物体中心座標系(object-centered)とが重要と考えられている。この観察者中心座標系には網膜中心の座標系と網膜によらず頭と身体的位置に依存する系とがある。半側空間無視の患者を対象に tachistoscope を用いた研究や読みの障害の研究をもとに、半側空間無視の半側とはどのような座標系についての半側なのかを検討する。

Key words: 半側空間無視、観察者中心座標系、物体中心座標系、網膜中心座標系

目的

主に右側の下頭頂葉の損傷によって生じる左半側空間無視は、その出現頻度も高くリハビリテーションの妨げになる重要な症候である。ふつう半側空間無視は眼前に呈示された花や家の模写の際に、左側を省略して描くことによって診断される。このような調べ方をしている限り、半側空間無視はどのような空間ないし軸を想定してその半側を無視しているのかは明らかではない。空間内におかれた物体を記述するのに、観察者中心座標系(viewer-centered)と物体中心座標系(object-centered)とが重要と考えられている。観察者中心座標系の中には、網膜中心座標系と頭あるいは体幹中心の座標系があると考えられる。我々は半側空間無視患者が一体どのような空間の半側を無視するのかを明らかにする目的で以下の検討を行ったので報告する。

対象

左半側空間無視を有する慢性期の脳血管障害患者。いずれの例も右側の大腦半球に病変を認める。

方法

半側空間無視を有する患者に、タキストスコプを用いて健常と考えられる右側の視野に刺激を継時的に呈示した。刺激は右側に識別点がある場合と左側に識別点がある場合とがある。その2つの刺激の異同判断をするよう求めた。

1例の患者は左半側空間無視を呈してはいたが左側の視野が保たれていた。その患者については左右の各視野にそれぞれ刺激を呈示し、2つの刺激の異同を判定させた。

結果

左半側空間無視を有する患者の、右側に呈示した刺激の異同判断において、刺激の左側に識別点がある場合の成績の方が、右側に識別点がある場合より成績が低値であった。

また、左側の視野の保たれていた1例についても、右側の視野に呈示した場合も左側の視野に呈示した場合でも、左側に識別点がある場合の方が右側に識別点がある場合より成績が低値であった。

考察・結論

この結果は、左半側空間無視患者は網膜中心

座標系の半側を無視しているのではないことを明瞭に示している。ではどのような座標系の半側を半側空間無視患者が無視するのかについて当日考察する予定である。